

オリックス銀行の子会社化について

2026年4月27日

株式会社大和証券グループ本社

本資料は、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2026年4月27日現在で公表可能な情報に基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

案件サマリー (1/2)

取引概要

100%子会社化

大和ネクスト銀行がオリックス銀行の発行済株式を全て取得

取得株式数	1,200,000株
議決権比率	100%

※将来的に両行の合併を想定

取得価額
3,700億円

※最終的な取得価格は、株式譲渡契約に定める価格調整等を経て決定

取得資金は
全額自己資金

取得資金は自己資金を充当予定
資本バッファの戦略的活用であり、
財務健全性は堅持

本件の目的

ウェルスマネジメント部門の強化を通じた安定収益の持続的拡大とROE及びEPSの向上

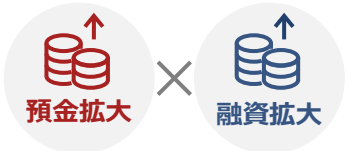
- 異なる強みと経営資源を持つ
大和ネクスト銀行とオリックス銀行の統合により、
お客様の資産・負債両面にわたる課題へのソリューション力を
高め、両行の企業価値を飛躍的に向上させる
 - オリックス銀行が培ってきた卓越した融資・信託機能と、
大和証券グループの強固な顧客基盤・営業基盤を
背景とした預金獲得力の融合により、持続的な成長を実現
- ① お客様一人ひとりのライフステージに応じた
総資産コンサルティング力の深化
 - ② 「預金拡大と融資拡大の好循環」を通じた
持続的な成長モデルの確立
 - ③ 合併による機能統合を通じたシナジー効果の極大化

案件サマリー (2/2)

持続的成長モデルの確立と連結業績へのインパクト

統合後の銀行は、総資産9兆円、自己資本約4,000億円規模となり、高度な融資・信託機能と強力な預金獲得力を兼ね備えた総合型銀行へと進化

⇒預金拡大と融資拡大の好循環を実現



シナジー効果 + オリックス銀行の単体業績による当社連結業績への大きな波及効果

1 シナジー効果として、350億円の資金収支向上のポテンシャル

- 大和ネクスト銀行の取り崩し可能な余資1.5兆円超と、競争力ある預金金利提供等を通じた預金2兆円を5年間で積み上げ、計3.5兆円を、不動産担保ローンや証券担保ローン等で運用し、資金収支の向上を目指す
- 仮に1%の利ザヤを確保できれば350億円の資金収支向上ポテンシャル

イメージ	日銀当座預金金利 :	0.75%
	オリックス銀行の資金運用利回り :	2.11% (2025年度上期)
	仮に1.5兆円 × 100bp =	150億円の資金収支増

2 オリックス銀行による業績インパクト

オリックス銀行の利益規模 (過去5年平均)	経常利益 :	約300億円
	純利益 :	約200億円

一方、本買収に伴うのれんの償却費用 (現時点で金額未定) が発生見込み

資本・規制

資本バッファを有効活用・財務健全性を堅持

本件実施後の規制比率*

連結総自己資本規制比率	14%超(▲5pts)
連結普通株式等Tier1比率	12%超(▲5pts)

成長投資・株主還元余力拡大に向けた資本バッファを確保

- 本件実施に伴う利益増を含めた期間利益の積み上げ
- 永久劣後債の発行を検討 (エクイティ・ファイナンスは想定しない)

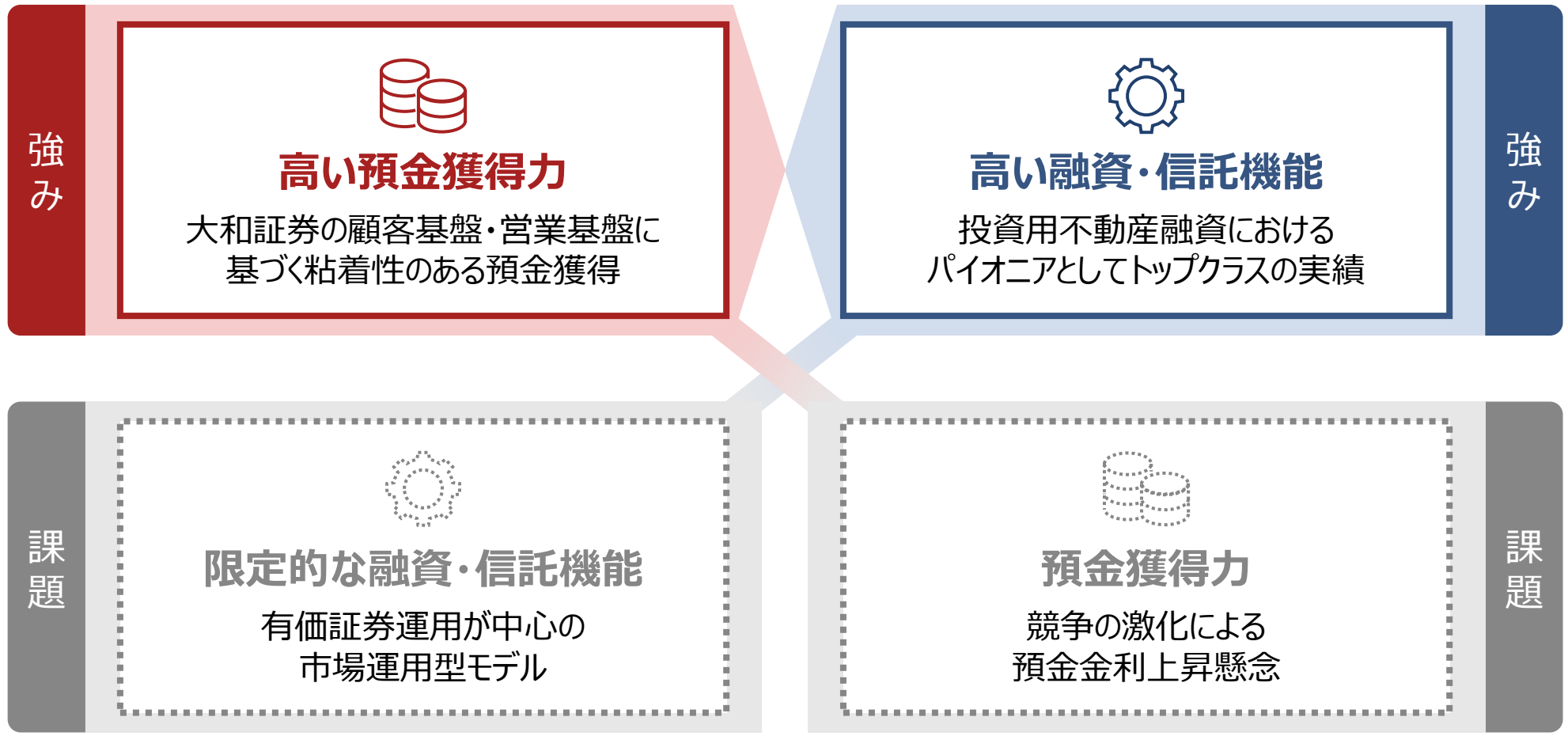
スケジュール

契約締結日	2026年4月27日
株式譲渡日	2026年10月までを予定

- 株式譲渡日は金融庁の銀行主要株主認可等及び独禁法上のクリアランスを取得後

* 2025年12月末時点のバーゼルⅢ最終化完全適用ベース

強みと課題が相互に補完しあう理想的な組み合わせ



ウェルスマネジメント部門の強化

- ① 総資産コンサルティング力の深化

+

- ② 預金拡大と融資拡大の好循環

+

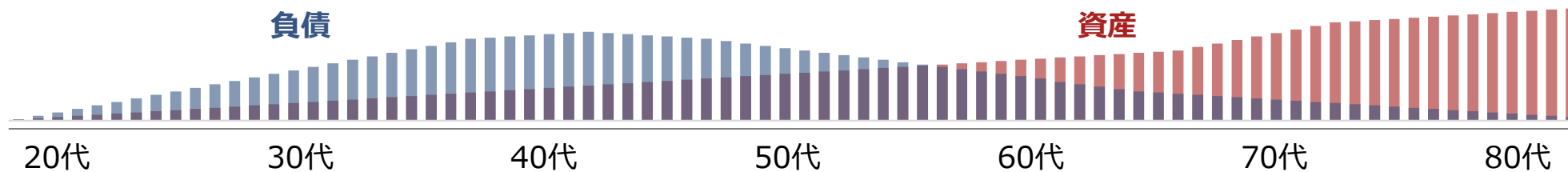
- ③ アセットマネジメント部門との連携を通じた成長加速

安定収益の飛躍的拡大

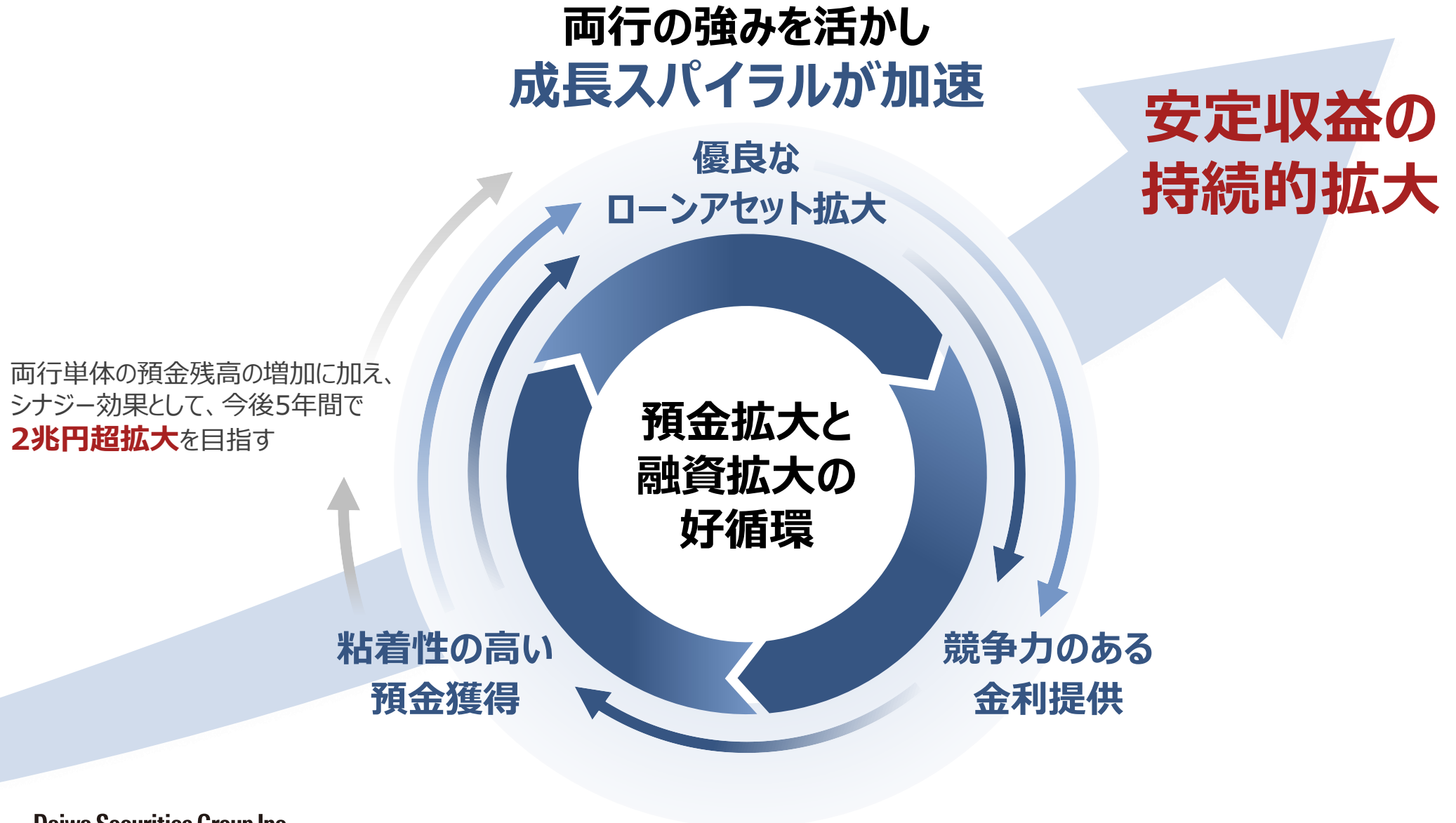
お客様の資産と負債のバランスシートを最適設計



世代別の資産・負債バランスのイメージ

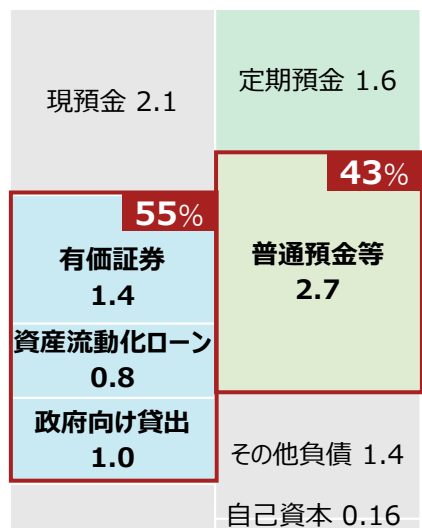


両行統合による「安定収益の持続的な成長モデル」の実現



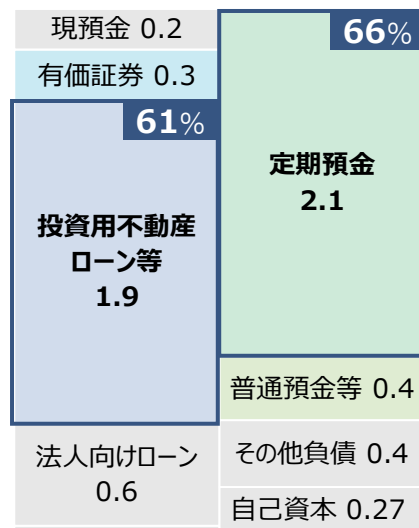
最大のシナジーを生み出すベストな融合

大和ネクスト銀行



総資産5.9兆円

ORIX オリックス銀行

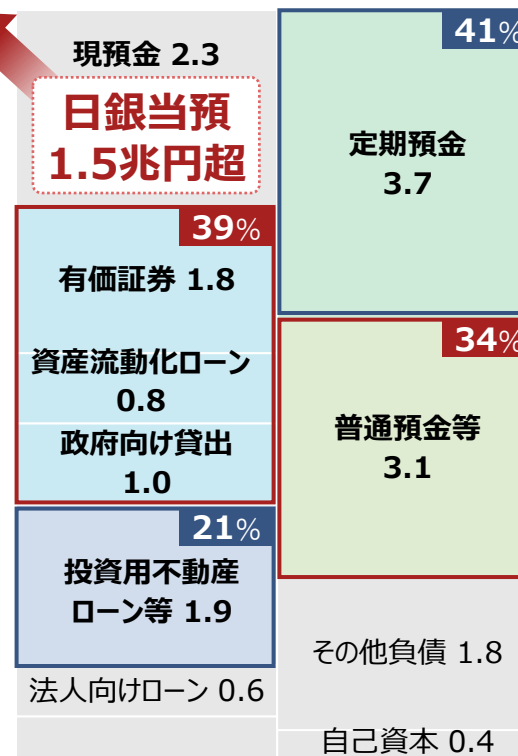


総資産3.1兆円

新銀行

新たな融資
に活用

不動産担保ローン
証券担保ローン
航空機リース向けローン
等



総資産9.0兆円

両行単体の
預金残高の
増加に加え、
シナジー効果
として、今後
5年間で
2兆円超拡大
を目指す

(単位：兆円)

現在のB/S (2025/3期)

合併後のB/S*

*単純合算ベース

融資と有価証券、普通預金と定期預金が適切に分散された強固なバランスシートを実現

競争力のある金利と預金獲得力を背景とした持続的な預金拡大



オリックス銀行

卓越した融資機能による
競争力のある金利提供



大和証券
Daiwa Securities

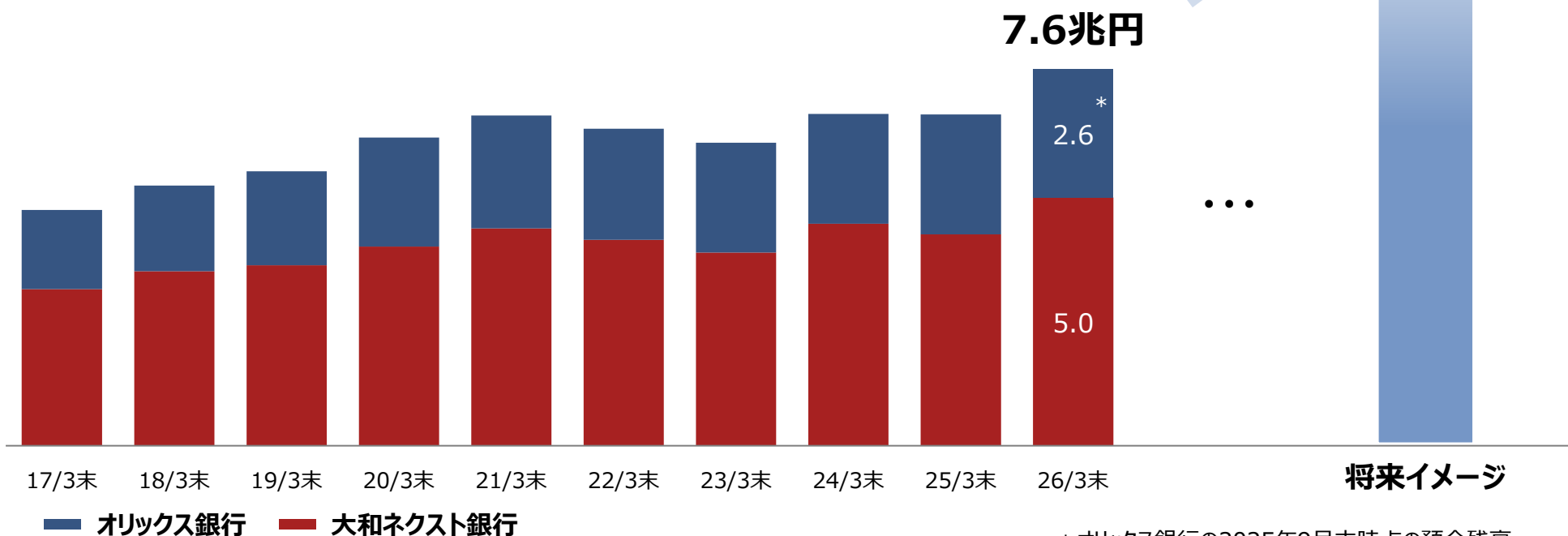
大和ネクスト銀行

顧客基盤・営業基盤による
預金獲得力



持続的な
預金拡大

両行の預金残高の推移



* オリックス銀行の2025年9月末時点の預金残高

<ご参考> オリックス銀行の概要



- 1993年山一信託銀行として設立され、1998年にオリックスグループ入り。融資機能・信託機能を有する新形態銀行
- 投資用不動産ローンを主力分野とし、特に投資用マンションローンにおいてトップクラスの地位を確立
- 店舗・ATM・通帳・キャッシュカードを持たないローコスト経営に加え、低い不良債権比率と与信費用を背景に、高水準かつ安定的な利ザヤを確保

会社概要

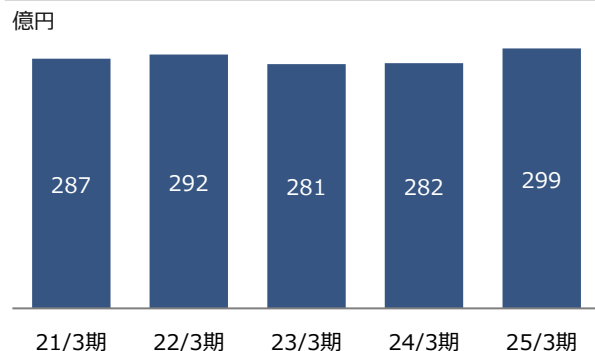
*2025年9月時点

商号	オリックス銀行株式会社
設立	1993年8月23日
代表取締役社長	寺元 寛治
本店所在地	東京都港区芝3-22-8 オリックス乾ビル
資本金	450億円
株主	オリックス株式会社（持株数の割合100%）
従業員数	922名
長期格付	AA（R&I）

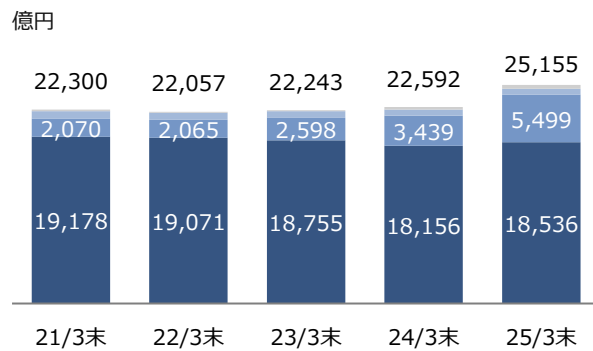
事業概要

投資用不動産ローン事業	個人・法人投資家向けに賃貸目的の投資用不動産の購入・借換資金提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ マンションローン ・ アパートローン
マーチャントバンク事業	レジデンス、物流、再生可能エネルギー等オーダーメイドの資金調達ソリューション提供
パーソナルファイナンス事業	提携ATMから借入・返済可能なカードローン
信託事業	信託機能を、個人には運用・資産管理、法人には運用・管理・流動化に活用

経常利益推移

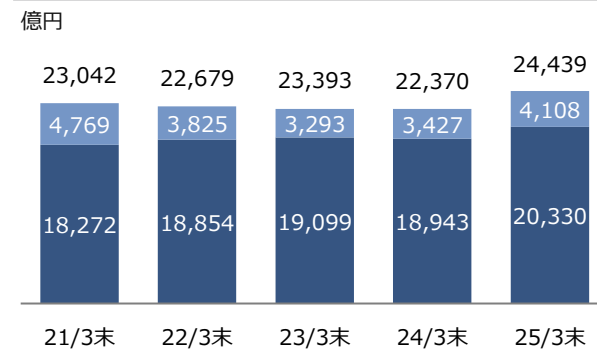


貸出金残高推移



■ 投資用不動産ローン等 ■ 法人向け ■ カードローン ■ その他

預金残高推移



■ 個人 ■ 法人 (NCD含む)

<ご参考> 大和ネクスト銀行の概要



- 大和ネクスト銀行は、2011年4月に大和証券グループにおける証券ビジネスのゲートウェイ銀行として開業
- 大和証券の総合取引口座と大和ネクスト銀行の預金口座が連携し、証券投資の待機資金を大和ネクスト銀行の普通預金で自動運用
- 有価証券が中心の市場運用型モデルとローコスト運営が特徴

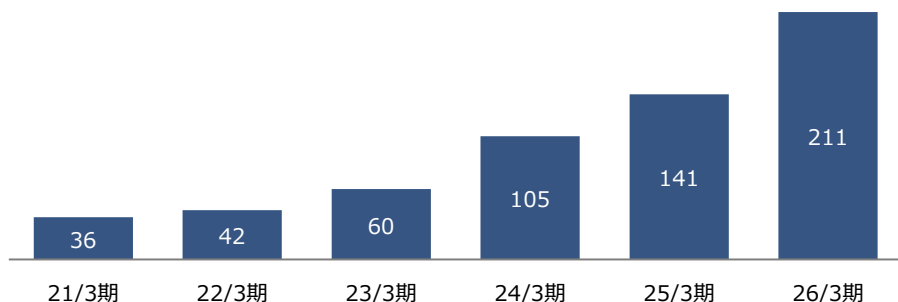
会社概要

*2026年3月時点

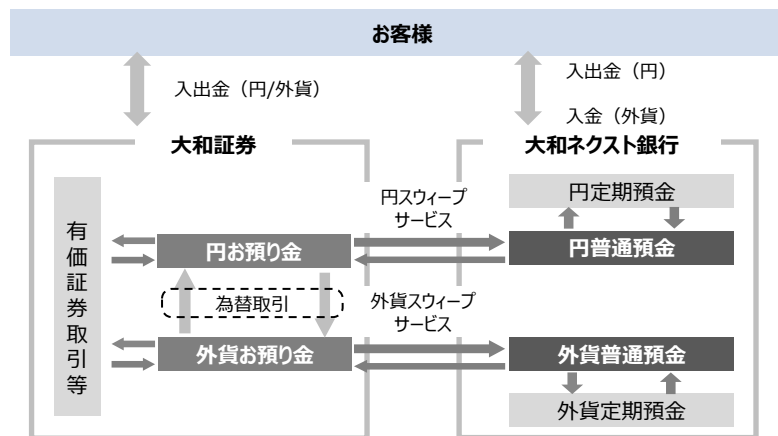
商号	株式会社大和ネクスト銀行
設立	2010年4月1日
開業	2011年4月15日
代表取締役社長	下村 直人
本店所在地	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
資本金	500億円
株主	株式会社大和証券グループ本社（持株数の割合100%）
従業員数	96名

経常利益推移

億円

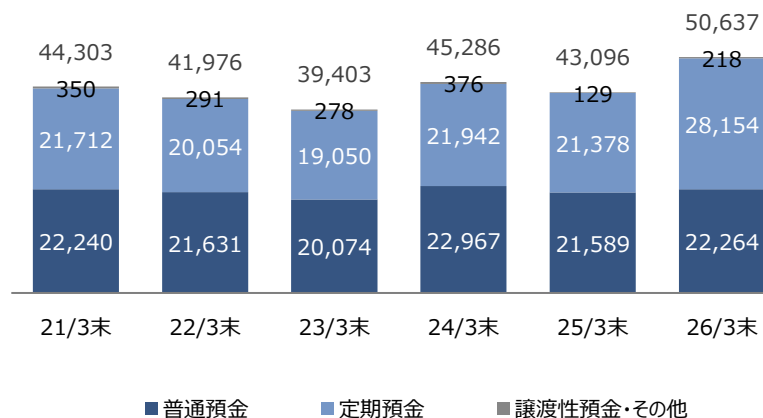


証券ビジネスのゲートウェイ機能



預金残高推移

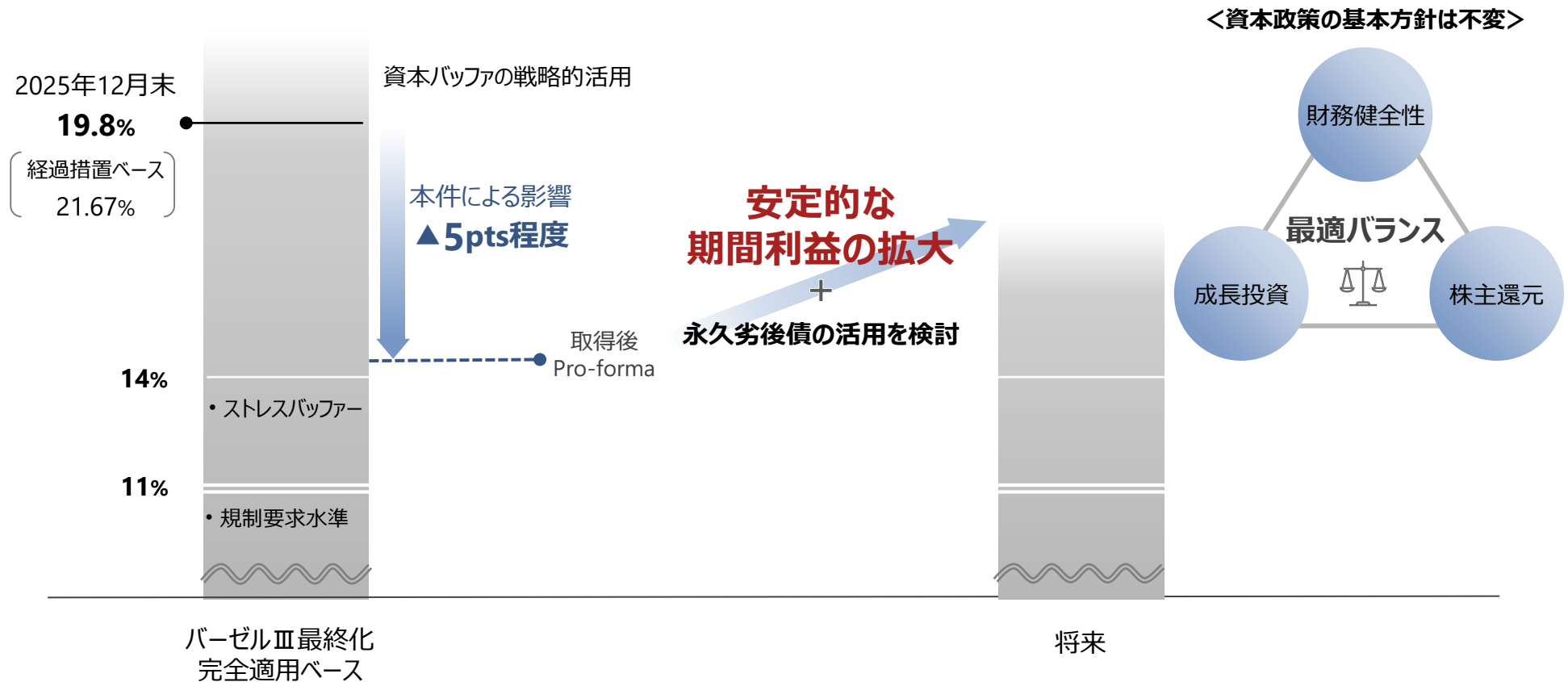
億円



<ご参考> 財務健全性の堅持と資本政策の基本方針は不変

- 本件実施後も、規制要求水準に対して一定のバッファを確保した自己資本を堅持
- 本件実施による安定的な期間利益の拡大及び永久劣後債の活用を通じ、成長投資および株主還元余力拡大に向け資本バッファを確保
- 財務健全性、成長投資、株主還元の最適バランスを図り、企業価値向上を目指す

連結総自己資本規制比率のイメージ





大和証券グループ本社 経営企画部IR室

E-mail: ir-section@daiwa.co.jp

URL: <https://www.daiwa-grp.jp/ir/>